

低体温と敗血症におけるアポトーシス、サイトカインの変動に対する静脈麻酔薬の効果

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-11-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Taniguchi, Takumi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00064424

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



低体温と敗血症におけるアポトーシス、サイトカインの変動に対する静脈麻酔薬の効果

Research Project

All

Project/Area Number

12770814

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Anesthesiology/Resuscitation studies

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

谷口 巧 金沢大学, 医学部・附属病院, 講師 (30301196)

Project Period (FY)

2000 - 2001

Project Status

Completed (Fiscal Year 2001)

Budget Amount *help

¥2,200,000 (Direct Cost: ¥2,200,000)

Fiscal Year 2001: ¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)

Fiscal Year 2000: ¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)

Keywords

静脈麻酔薬 / 敗血症 / 低体温 / サイトカイン / アポトーシス / エンドトキシンショック / プロポフォール / ケタミン / エンドトキシンショック

Research Abstract

敗血症と体温の関係に注目し、敗血症時の低体温による症状の悪化を防止する対策として、静脈麻酔薬(ケタミン、プロポフォール)の応用を検討する目的で、循環・呼吸動態に及ぼす、低体温と感染に対する静脈麻酔薬の影響についてラットを用いて検討した。前年度、プロポフォールを用いて鎮静させた後、エンドトキシンを静脈内投与し、30℃の低体温における影響を検討したが、結局プロポフォールの抗炎症効果を証明することができなかった。今年度は34℃におけるプロポフォールの抗炎症効果とケタミンにおける効果を検討した。その結果、プロポフォールの34℃でもプロポフォールの抗炎症効果は証明できず、低体温におけるプロポフォールの抗炎症効果は無いように思われた。しかしながら、ケタミン投与による低体温では、30℃、34℃とも循環動態は安定し、サイトカインの抑制も認められ、ケタミンの場合は低体温状況下でもその抗炎症効果があることが確認できた。結論として、エンドトキシン+低体温が生体内に悪影響を及ぼす事は周知の事実であるが、それを静脈麻酔薬であるプロポフォールは、抑制できないが、ケタミンでは抑制できることが示された。

Report (2 results)

2001 Annual Research Report

2000 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-12770814/>

Published: 2000-03-31 Modified: 2016-04-21